

開講年度	令和 8 年度	開講課程	博士課程
授業名	生命薬学特別演習 II		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 2 年次
必修・選択の別	選択	単位	2 単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態解析学) 病態解析 (生物化学) 遺伝情報発現 (分子生物薬学) 摂食・代謝 (生体機能解析学) 中枢神経、慢性疾患 (衛生薬学) 代謝酵素		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(病態解析学) 教授 長野一也、講師 山下琢矢、助教 堤峻太郎 (生物化学) 教授 <u>長田茂宏</u> (分子生物薬学) 教授 三宅 歩 (生体機能解析学) 教授 那波宏之、准教授 木口倫一、講師 難波寿明 (衛生薬学) 准教授 佐能正剛	
	薬		
授業の概要	「未病の段階からの介入・制御」、「遺伝情報発現」、「摂食行動」、「中枢神経系疾患」、「代謝酵素」を中心とした生命現象と薬学の関係について、最新の文献情報などから当該分野を理解し、教員と議論することで問題発見、解決能力を高める。		
到達目標	(病態解析学) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に介入・制御するための手法を提案できる。 (生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する内容の理解を深め、それらに関する課題発見・解決能力を修得する。 (分子生物薬学) 摂食行動、病態代謝の分子機構とその制御に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的な問題に対処するための問題解決能力の修得をめざす。 (生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患に対する神経薬理学及びその治療戦略に関する基本的知識を備え、当該分野における課題を解決するための方法を議論・提案できる。 (衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する研究を進めるための実験手法や問題解決能力を修得し、説明できる。		

授業計画	<p>(病態解析学) 体内動態を基盤とした未病/疾患の介入/制御と問題解決能力の育成を目指す。(長野一也／山下琢矢／堤峻太郎)</p> <p>(生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解の統合と課題発見・解決能力の育成を目指す。(長田茂宏)</p> <p>(分子生物薬学) 摂食行動、病態代謝の分子機構に関する最近の研究の紹介、およびそれに基づく討論と解説を行う。(三宅 歩)</p> <p>(生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患に対する神経薬理学及びその治療戦略に関する講義、文献から得られる情報に基づく議論を行う。(那波宏之／木口倫一／難波寿明)</p> <p>(衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する知見に基づく議論を行う。(佐能正剛)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。